

平成 27 年度第 2 回社会教育委員会議 議事要旨

1 日時

平成 27 年 8 月 11 日（火）18：00～19:34

2 場所

とかちプラザ 講習室 402

3 出席委員（20 名中 19 名出席）

松本 健春 委員長、高倉 美恵子 副委員長、我妻 公裕 委員、辻 敦郎 委員、大場 渉 委員、阿部 好恵 委員、矢野 充 委員、中田 由美子 委員、松田 信幸 委員、池田 健一 委員、大槻 みどり 委員、田中 恵子 委員、久保田 博己 委員、半田 聡 委員、藤崎 博人 委員、高橋 弘史 委員、廣瀬 有紀 委員、奥村 喜実 委員、佐々木 祥世 委員

4 事務局

神田 亜紀志 生涯学習部長、敦賀 光裕 スポーツ振興室長、葛西 克也 生涯学習部企画調整監、本江 宏子 図書館長、樂山 勝則 生涯学習課長、増子 和則 文化課長、西尾 仁 スポーツ振興主幹、泉 和知 スポーツ施設担当主幹、北沢 実 百年記念館長、高橋 利夫 動物園長、鈴木 恵 図書館副主幹、安藤 和彦 図書館副主幹、山原 敏郎 百年記念館副館長、柚原 和敏 動物園副園長、島田 猛 生涯学習課生涯学習推進係長、遠谷 栞 生涯学習課生涯学習推進係係員

・委嘱状交付、委員の自己紹介、事務局員の紹介の後、議事に入った。

5 議事

(1) 正副委員長の選出について

・帯広市社会教育委員会議規則第 2 条の規定に基づき、委員の互選により委員長に松本委員を副委員長に高倉委員をそれぞれ選出した。

(2) 社会教育委員制度について

事務局 : 社会教育委員制度の概要について説明。

委員長 : 今回初めて委嘱された委員の方もいらっしゃるのでは、何かご質問等あればお伺いしたいと思う。

何かご意見だとかご質問はあるか。

<質疑・意見等 なし>

(3) 生涯学習部平成26年度の取組実績について

生涯学習係長 : 第六期帯広市総合計画の5本の成果指標となっている「市教育委員会が開催

する講座等の参加者数」「地域について学ぶ講座等への参加者数」「学習成果の活用事例数」「地域の指導者の登録者数」「市民一人あたりの図書等の貸出点数」「社会教育施設の総利用者数」について、実績の報告。

委員 : 移動図書館バス ナウマン号について、もっと周知をして本の貸出が増えるような取組みをしてはどうか。

図書館長 : ナウマン号については、市内54ステーションを月1回まわっており、図書館から遠い地区に居住されている方等に利用していただいている。3年程前に貸出数が落ちたが、ここ数年高齢者学級の卒業生による自主グループ「帯広市わかば会」等に周知をしたところ、若干伸びてきている。今後も周知の場を増やし、貸出数増加に向けて取り組んでいく。

委員 : 成果指標について、「帯広市教育委員会が開催する講座等の参加者数」であれば何本あって、昨年と同様なのか、増加しているのか等がわからない。また、目標値の設定については、「帯広市教育委員会が開催する講座等の参加者数」を見ると、目標値はH19から変わらず23,000人のままで、実績値も目標値を上回っている。目標値を上回っているのに、毎年の目標値に変動がないものがあるのはなぜなのか。

生涯学習課長 : 最終目標値はH31とされており、設定の仕方としてH31まで目標値をキープするというものもあれば、目標値を上げていくものもある。考え方については、庁内はもとより、議会でも特別委員会が設けられ議論の上、このとおり設定している。

生涯学習係長 : 講座の参加者数について、市民大学講座は前年より15回、受講者は780名程減少している。帯広畜産大学や帯広大谷短期大学等の講座との重複等があり、講座の実施日見直しの結果、開催数が減少したと考えている。

委員 : 目標の設定の仕方に何か特別なものがあるのかを、教えてほしい。

生涯学習課長 : 各指標には、指標管理表を設け、目標値の考え方や市の取組みとしてのどういった部分を指標に取り込んでいくのか明らかにしている。「帯広市教育委員会が開催する講座等の参加者数」であれば、目標値23,000人の考え方は、基準年をH19とし、過去5年間の最高値を目標値に設定している。関係部分の指標管理表については、追って委員の皆様へお配りする。

文化課長 : 4本の成果指標「ホームページで芸術・文化活動を紹介する文化団体数」「発表・活動の場への参加団体数」「鑑賞事業の入場者数」「文化施設の利用者

数」について、実績の報告。

委員 : 市民ギャラリーについて暖房費の補助等を検討していただくことは可能か。

文化課長 : 暖房費については、今すぐ減額とはならないので、利用料等見直しの機会として捉え検討していく。

スポーツ振興

主幹 : 5本の成果指標「スポーツ大会、スポーツ教室・講習会の参加者数」「総合型地域スポーツクラブの設置数」「各種スポーツ大会の観客数」「スポーツ合宿団体数」「スポーツ施設の利用者数」について、実績の報告。

委員 : 総合型地域スポーツクラブの設置について、今後4年間で4つのクラブを設置となっているが、それに対し地域の指導者登録数やスポーツクラブの指導者育成について、今後何か計画はあるのか。

また、帯広市では岩内仙峡の体育施設について、老朽化が進んでいるが、改修工事等の予定はあるか。以前利用した際に、市内であっても岩内仙峡では気温が低く、過ごしやすい環境での活動ができたが、そういったことを活かした計画等もあれば伺いたい。

スポーツ振興

主幹 : 指導者については、帯広市体育連盟や障害者のスポーツ指導者講習会等、新たに行われており、そういった各団体と情報交換をしながら検討していきたい。

企画調整監 : 岩内仙峡の体育施設については、所管部が「こども未来部」であり、教育委員会ではどういった計画があるか把握していないため、後日委員の皆様へ報告する。

(4) 今期の社会教育委員について

委員長 : 今期、どういった議題でこの社会教育委員会議を進めていくか、ご意見をいただきたい。

副委員長 : プラザ・エンジョイスクールの運営委員をしているのだが、講座や受講生が減少してきている。広報おびひろに掲載しているが、講座内容の詳細までは記されておらず、広報活動について課題となっている。何か皆さんのお知恵をお借りしたい。

委員 : 帯広市の基幹産業は農業であるが、食育や学校給食等の子どもに関係するものについて、例えば「学童農園」ということで、幼稚園児等が畑にいもを植えて秋に収穫をするというものがある。農作物は適期に種をまいて適期に収穫するのが良いが、学校のスケジュールによって時期がずれることもある。入口と出口だけを摘んで「食育」なのかということ。学校にきいてみても、食育に関してはやはり温度差がある。昨年、道の研修会に参加した際に、町村では農業や漁業などに従事している方が、子ども達の社会教育としてボランティアみたいな形でまちづくり活動をしているところもある。

委員長 : これらの意見を踏まえまして、正副委員長と事務局で、議題について決めていきたいと思う。私個人の意見としては、社会教育施設を会場に、帯広市にどういった施設があって歴史があるのか、知りながら会議をしていけたらなと思っている。

<質疑・意見等 なし>

(5) その他

事務局 : <以下の事項について事務局から説明>

- ・第55回北海道社会教育研究大会（日高大会）について
- ・第59回全国社会教育研究来会北海道大会の開催について

<質疑・意見等 なし>

以上